

No 6 : 最大規模のブックフェア

7月上旬。県香港事務所に日ごとに段ボール箱が届き、山のように積み上がった。中には県内市町などからの観光パンフレットがぎっしり。箱が通路を埋め尽くすほどになった頃、ついに多くの方々に配布すべき時、香港ブックフェア当日を迎えた。

同月 16 日から 22 日にかけて開催された香港最大規模の BtoC（対消費者）イベント。その名の通り、出版社などによる書籍に関するブースを中心として、レジャー、スポーツ、飲食など、770 余りの出展者が集結した。香港をはじめ、中国本土、東南アジアなどから延べ 89 万人が来場した大型見本市に、県として 3 年連続でブースを構えた。

会場 5 階のトラベルゾーン内に設けられたジャパンパビリオンには、本県を含む 20 の団体が出展。本県はパビリオン内で唯一となるカプセルトイ（ガチャガチャ）を初めて導入した。日光江戸村のご協力のもと、忍者キーホルダーなどのオリジナル景品を用意し、来場者の関心を集めた。

さらに今回は、県内各地の 12 の宿泊・観光事業者にも参加いただき、「チーム栃木」で観光情報を発信。会場内ステージでは、各事業者が来場者に直接魅力を伝える機会も設けられた。



【香港ブックフェアの本県ブースの様子＝7 月 19 日、香港・湾仔】

連日多くの人でにぎわい、週末には本県ブースも人だかりが絶えない盛況ぶりで、用意した県内市町のパンフレットもすべてなくなった。台風直撃による一時閉場という予期せぬハプニングにも見舞われたが、来場者の熱気に負けない力強さで、本県の魅力を届けることができたと思う。

出展に合わせ、新型コロナ禍を経て初となる香港での栃木県観光商談会も開催した。さまざまな旅行商品を取り扱う香港の旅行会社 20 社が集まり、県内事業者との久々の対面の場となった。事前の準備は手探りの連続で、冷や汗をかく場面も多々あったが、当日は予定時間を過ぎても商談が続くケースが見られるなど、香港側の関心の高さがうかがえた。

日本政府観光局（JNTO）の発表では、7、8 月の香港からの訪日旅行者数は依然として「予言」の影響などで減少している。しかし、ブックフェア会期中に来場者や旅行会社から、気がかりな様子は見受けられなかった。現在、香港でこの話題を耳にすることもない。日本への旅行需要が再び高まりつつある今こそ、さまざまな場面を活用し積極的な PR を展開していきたい。

県香港事務所長 鈴木高明